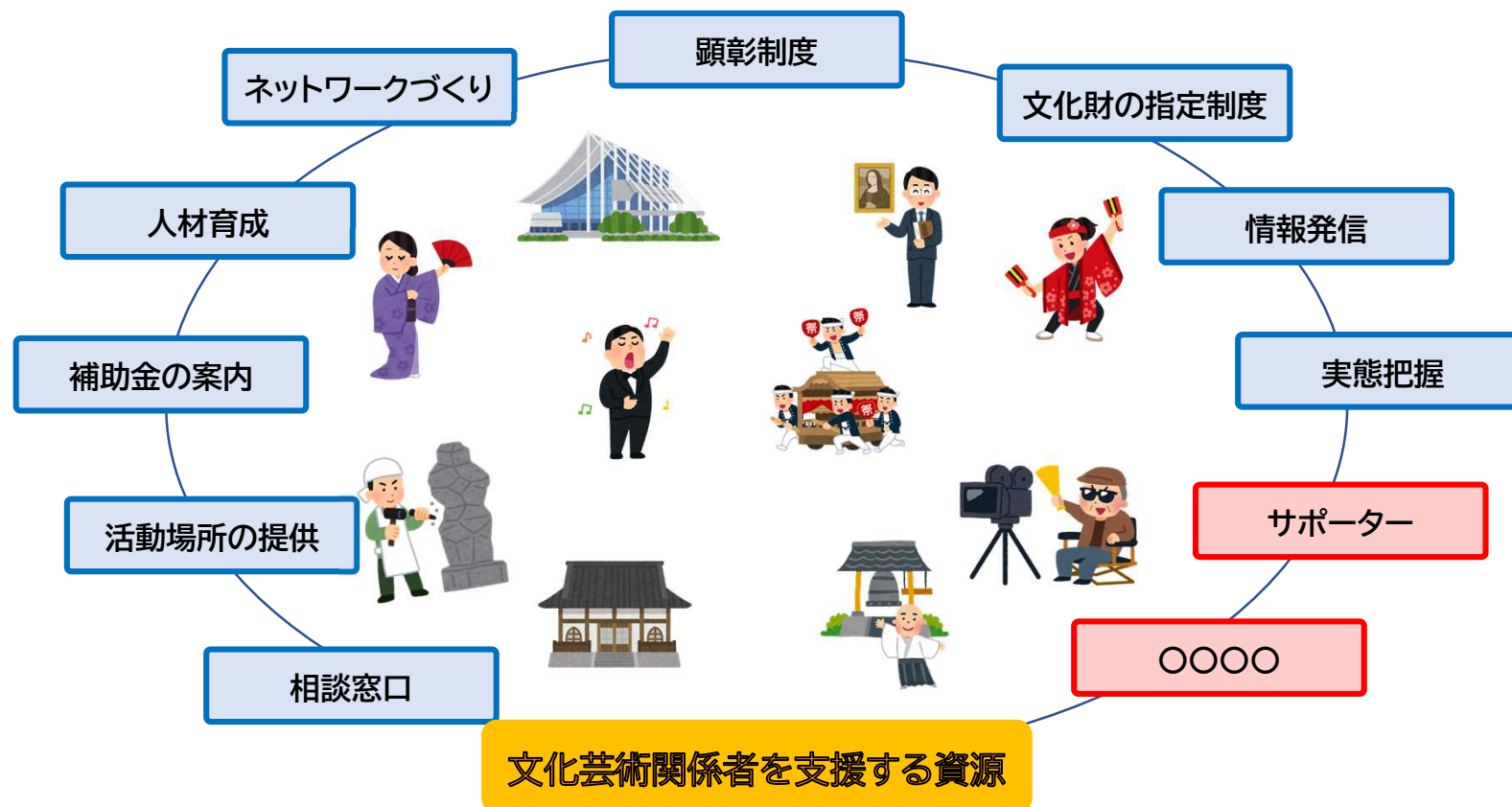


文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方の方向性について

1 目指す姿

持続的な文化芸術活動の推進



【背景】新型コロナウイルス感染症の影響により、文化芸術関係者は活動継続に支障が生じる事態となった。県では、文化芸術関係者の実態を把握できておらず、このことが支援を行う上での課題となった。

【目標】文化芸術関係者の持続的な活動に向けた課題やニーズを把握し、施策検討や他分野の施策との連携等を進める。

文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方の方向性について

2 現状(今ある資源)

(1)公共

主体	内容
滋賀県	<p>①相談窓口</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術振興施策推進体制の構築事業 【概要】文化芸術の創り手や継承者の育成・確保を図るため、相談窓口の設置や研修会等を実施 【対象】文化芸術関係者 【事業内容】・相談窓口の設置 ・相談会、交流会、研修会の開催 ・文化財の保存・活用に関する相談 <p>②活動場所の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県立美術館 ・県立びわ湖ホール ・滋賀県芸術文化祭 ・新琵琶湖文化館 <p>③補助金の案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種民間助成事業の紹介 ・文化財保存修理等に係る補助事業の紹介 ・地域資源活用交流創出事業 【概要】多様な文化活動団体等が実施する地域に根ざした文化やアートを活用して行う取組を補助し、分野や地域を超えた交流を生み出す取組となるよう支援 【対象】団体 等 【補助額】補助対象経費が75万円以上の事業で、一団体あたりの補助上限額200万円 <p>④人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ＜関係者への支援＞ ・【再掲】文化芸術振興施策推進体制の構築事業 ＜未来の担い手の育成＞ ・ホールの子事業 ・文化財の子はぐくみ事業 ・【再掲】滋賀県芸術文化祭

文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方の方向性について

主体	内容
滋賀県	<ul style="list-style-type: none">⑤ネットワークづくり<ul style="list-style-type: none">・【再掲】文化芸術振興施策推進体制の構築事業⑥顕彰制度<ul style="list-style-type: none">・滋賀県文化賞等の表彰⑦文化財の指定制度<ul style="list-style-type: none">・滋賀県指定文化財の指定⑧情報発信<ul style="list-style-type: none">・Shiga Art<ul style="list-style-type: none">【概要】アーティスト情報、支援情報などを発信する。・後援制度⑨実態把握<ul style="list-style-type: none">・滋賀県文化芸術関係者実態把握調査

文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方の方向性について

主体	内容
市町	<ul style="list-style-type: none"> ①相談窓口 <ul style="list-style-type: none"> ・「アートおたすけ！相談室」 ・文化財の保存修理および活用に関すること ②活動場所の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・市町文化施設 ・市町の公募展 ③補助金の案内 <ul style="list-style-type: none"> ・「文化芸術サポート＜ナシスト＞」 ・文化財保存修理等に係る補助事業 ④人材育成 ⑤ネットワークづくり ⑥顕彰制度 <ul style="list-style-type: none"> ・各市町文化賞（大津市、彦根市、栗東市など） ⑦文化財の指定制度 <ul style="list-style-type: none"> ・市町指定文化財の指定 ⑧情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・「大津市歴史文化情報集約サイト」（大津市）での紹介 ・後援制度 ⑧実態把握 <ul style="list-style-type: none"> ・市町文化団体等への補助金の支出 ・市民・町民からの相談対応 等

文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方の方向性について

2 現状(今ある資源)

(2) 地域

主体	内容
自治会、子ども会	④人材育成
文化施設	①相談窓口 ・相談窓口
教育機関	①相談窓口 ・相談窓口 ④人材育成 ・担い手育成 ⑨実態把握 ・調査・研究

文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方の方向性について

2 現状(今ある資源)

(3) 民間団体、民間企業の文化財団等

主体	内容
(公財)びわ湖芸術文化財団	③補助金の案内(協働事業) ④人材育成 ⑤ネットワークづくり ・滋賀県アートコラボレーション事業 【概要】 地域の多様な文化芸術創造活動との協働事業 ①ホールプロデュース部門 ②おうみアートコーディネーター部門 ③おうみ狂言図鑑部門 【対象】 ①県内文化ホール設置者および運営者 ②県内アート NPO や文化団体、文化芸術活動を行う個人 ③県内文化ホール設置者および運営者 【補助額】 経費負担の支援あり
淡海ネットワークセンター((公財)淡海文化振興財団)	③補助金の案内 ・未来ファンドおうみ助成事業(基金) 【概要】 【対象】 条件に該当するNPO法人・それに準ずる団体
(公財)滋賀県文化財保護協会	③補助金の案内(貸付事業) ・文化財保護資金貸付事業 【概要】 滋賀県内に所在する文化財の保護・保存をはかるために、所有者の一時的な負担に対して資金を貸付するもの 【貸付上限額】 1,000万円 ・文化財活用資金貸付事業 【概要】 滋賀県内に所在する文化財を活用することにより保護・保存をはかることを目的とし、活用事業に資金の必要な所有者・団体の一時的な負担に対して資金を貸付するもの 【貸付上限額】 300万円
平和堂財団	⑥顕彰制度 ・芸術奨励賞 【概要】 助成金＋発表機会の提供 【対象】 将来国内外で優秀な芸術活動が期待できる県内の新進芸術家

文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方の方向性について

主体	内容
特定非営利活動法人はまかる	③補助金の案内 ・Nasist(Nagahamaarts asistants)＜ナシスト＞ 【概要】 補助金 【対象】 長浜市内を中心に活動する団体
社会福祉協議会ボランティアセンター	⑤ネットワークづくり ・しがボランティアネット(滋賀県ボランティア地域活動情報サイト) 【概要】 幅広い分野からのボランティアの募集情報を発信。県、市町社協が共同で運営管理。文化・芸術分野の活動、文化施設での活動(チケットもぎり、舞台技術補助、広報)など
滋賀ロケーションオフィス	⑤ネットワークづくり ・サポーター募集 【概要】 県内での撮影の手伝い(エキストラ、ボランティア)をするサポーターを募集
(社福)グロー	①相談窓口 ・障害のある人の造形活動に関する窓口「アイサ」 ④人材育成 ・障害のある人の美術や舞台表現の支援者等に対する研修会 ⑤ネットワークづくり ・障害のあるアーティストやその家族、福祉関係者、美術や舞台関係者、地域等の交流の場の実施

文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方の方向性について

3 仕組みづくりの方向性

- ・今ある資源を活用して、循環させる仕組み。
- ・「支えたい人」と「活動する人」をつなぐ仕組み。
- ・多様な活動の中で、文化芸術がつなぎになる。
- ・文化芸術が地域の活動を媒介するツールになる。
- ・子ども、環境、人口減少などの関心事から芸術的な活動をつなぐことで、より伝わりやすくなる。

文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方の方向性について

4 仕組みのイメージ

文化芸術関係者と支援となる資源をつなぐ

1 現在、把握している資源とつなぐ

文化芸術関係者



文化芸術関係者を支援する資源

相談窓口

活動場所の提供

補助金の案内

人材育成

ネットワークづくり

顕彰制度

文化財の指定制度

情報発信

実態把握

2 新しい資源(サポーター)を開拓して、つなぐ

文化芸術関係者



文化芸術関係者を支援する資源

サポーター (文化芸術関係者の応援者)

応援方法はさまざま。
サポーターと文化芸術関係者の
希望をマッチングする。



文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方の方向性について

5 部会(5月2日開催)での御意見

○支援する対象について

- ・課題とされている内容が、芸術分野に偏っていたように感じる。(対象となる分野は、) 芸術や文化財だけでなく、自然や歴史、人などを含めて三位一体として、地域に生きているものと考えている。(三宅委員)

○文化芸術関係者を支援する資源について

- ・子どもや若者、次世代を育てる者を支援してほしい。横つながりが大事。(磯崎委員)
- ・滋賀で活動しようとする 県外活動者も支援対象にしてほしい。(磯崎委員)
- ・既存の 人材確保プログラムの効果検証と大学との連携の可能性の検討。(上田部会長代理)
- ・文化芸術の可視化とトリアージ。(上田部会長代理)
- ・無くなってしまいそうな 文化や習慣のアーカイブ化。(小林部会長)
- ・どのような資源があるのか、もっと具体的に考えてはどうか。(若林委員)

文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方の方向性について

5 部会(5月2日開催)での御意見

○文化芸術関係者と資源をつなぐ仕組みづくりについて

- ・相談窓口や補助金制度など、すでにたくさんある資源をワンストップで提供できないか。
(小林部会長)
- ・ITを活用して、自分の条件と合った文化施設をピックアップするアプリができないか。そのためのデータベースを作ってはどうか。(上田部会長代理)
- ・文化と地方創生をどのような結びつけるか考える必要がある。(上田部会長代理)
- ・北部では、特に少子高齢化が進んでおり、地域文化を持続可能にするような仕組みとなればとても魅力的。(三宅委員)
- ・県庁の関わり方がイメージしづらい。(若林委員)
- ・アーツカウンシルについて、他の選択肢を含めて検討することが大事。(若林委員)
(アーツカウンシルを作るか、県職員の中に、文化担当職員を配置するのか等)